

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 209人 国語B 209人

② 数学A 209人 数学B 209人

5 留意事項

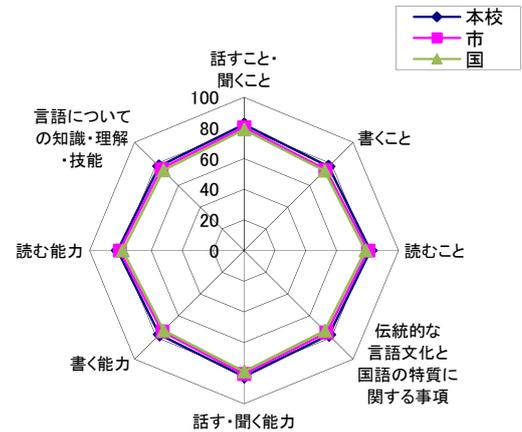
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

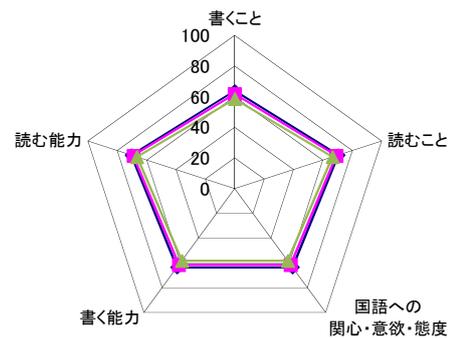
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	82.3	80.5	78.9
	書くこと	77.4	74.7	73.7
	読むこと	81.9	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.8	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	82.3	80.5	78.9
	書く能力	77.4	74.7	73.7
	読む能力	81.9	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	77.8	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	63.6	61.6	58.3
	読むこと	70.4	69.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	63.6	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	63.6	61.6	58.3
	読む能力	70.4	69.1	66.5
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

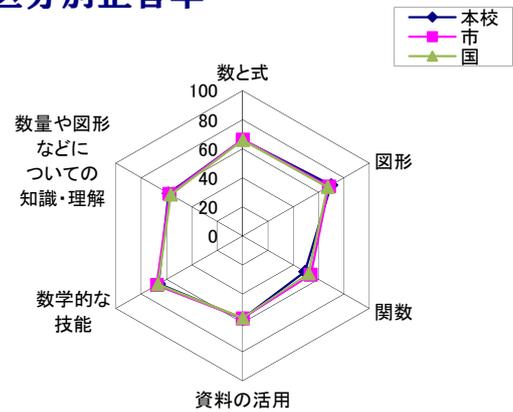
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aにおいて、国、県、市の平均を上回っている。	・今後も、聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して話したり、目的に応じて資料を効果的に活用して話したりすることに取り組ませたい。
書くこと	○国語A、Bともに、国、県、市の平均を上回っている。 ●「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」問題では、正答率が85.2%と高いが、無回答率も6.2%と高くなっている。	・今後も、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことを意識して、書く練習に取り組ませていく。苦手意識がある生徒には、根拠を明確にして書くことに取り組ませたい。
読むこと	○国語A、Bともに、国、県、市の平均を上回っている。特に、物語の「文章の展開に即して内容を理解する」「目的に応じて必要な情報を読み取る」では、国、県の平均を大きく上回っている。 ●「文章の構成を捉える」「奥付を使って本についての情報を得る」では、国、県の平均よりやや下回っている。	・文学的文章に比べ、説明的文章に関する問題の正答率が低いので、授業でも構成を捉えることなどに力を入れていきたい。また、奥付など図書についての知識も身に付けさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aにおいて、国、県、市の平均を上回っている。漢字の読み書きについては6問中5問が90%に近い正答率であり、日頃から新出漢字の練習と漢字テストを行ってきた成果が見られる。 ●「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」では、問題によっては、国、県の平均より下回るものもあった。	・漢字の学習では、今後も漢字練習・漢字テストを継続することで身に付けさせていきたい。語句については、教科書の「広がる言葉」を活用しながら、より多くの言葉に触れて語彙を増やせるようにしたい。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

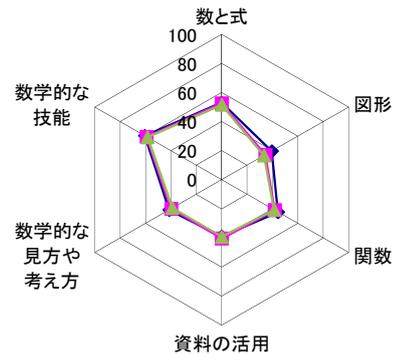
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	66.1	66.4	65.9
	図形	69.9	68.1	67.1
	関数	49.3	53.7	52.0
	資料の活用	57.1	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	66.3	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	58.5	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	53.1	52.7	51.5
	図形	39.5	34.5	33.3
	関数	44.4	41.9	41.4
	資料の活用	39.0	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	41.4	39.9	38.9
	数学的な技能	60.5	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○整式の加法、減法、二元一次方程式の立式においては、正答率が85%を超え、県や全国を上回っている。</p> <p>●数量の関係を文字式に表すことについて、正答率が40%を下回っている。また、問題を解決する方法を数学的に説明することについて、正答率が低く、県や全国を下回っている。</p>	<p>・数量の関係を的確にとらえ、等式で表す活動を重視し、またそれらを用いて論理的に説明できるように指導していきたい。</p> <p>・授業において、既習事項の確認を行いながら反復演習を行い、定着を深めたい。</p>
図形	<p>○見取り図の見方や三角形の合同条件については、正答率が80%を超え、県や全国を上回っている。</p> <p>●円柱と円錐の体積の関係や、筋道を立てて考え、証明することの正答率が低く、理解が不十分である。</p>	<p>・数学的な推論の意義と方法について理解を深めるよう繰り返し指導していきたい。</p> <p>・図形に関する知識を授業中に確認することで、知識の定着や理解を深めたい。</p>
関数	<p>○比例の関係の表については、正答率が90%を超え、県や全国を上回っている。</p> <p>●比例の関係についてyの増加量を求めることや、反比例のグラフから式を求めることについて、正答率が低く、理解が不十分である。</p>	<p>・具体的な関数を取り上げ、表やグラフの特徴を捉えることで、比例や反比例、一次関数の関係について理解を深めさせたい。</p>
資料の活用	<p>○1枚の硬貨を投げたときの確率については、正答率が県や全国を上回っている。</p> <p>●与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することの正答率が30%を下回っており、課題が残る。</p>	<p>・近似値と誤差の意味についてはもう一度復習をし、知識を定着させたい。</p> <p>・与えられた情報の選択や、それらを数学的に表現することの意義を授業中に重視し、理解を深めるよう指導していきたい。</p>

宇都宮市立宮の原中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「物事を最後までやり遂げて嬉しかったことがある」という生徒の割合は8割を越えており(82.3%)、全国平均を約9.6ポイント上回っている。

○「難しいことでも恐れずに挑戦する」と回答した生徒の割合は33%で、全国を14ポイント、県を10.7ポイント上回っている。

○「自分には良いところがある」と思っている者は、39.2%おり、全国を11.8ポイント、県を9.5ポイント上回っている。

○「将来の夢や希望を持っている」と回答した生徒の割合は51.2%で、全国を6.1ポイント、県を2.6ポイント上回っている。

○読書が好きな生徒の割合は56%であり、全国より9.5ポイント、県より5.1ポイント上回っている。

○学校図書館や地域の図書館を週1回以上利用すると回答した生徒の割合は14.8%おり、全国より7.2ポイント、県より7.7ポイント上回っている。

本校でも実施している「朝の読書」の成果により読書の習慣が定着していると考えられる。利用しやすい学校図書館、市立図書館の存在も大きい。読書の幅を広げるためにも、図書館便りやポップ、学校図書館司書による本の紹介を引き続き行っていきたい。また、宮の原中学校で選定した課題図書も「読書ビンゴ」で読破を勧めていきたい。

○平日の一日当たりの家庭学習の時間については、2時間以上勉強をしている生徒の割合が38.2%で、全国を4.0ポイント、県を2.2ポイント上回っている。

○休日の家庭学習の時間については、3時間以上の割合が21%で、全国を4.4ポイント、県を2.1ポイント上回っている。

●携帯電話やスマホを持っていない者の割合は20.1%である。全国の割合は18.8%、県の割合は29.9%で県との比較では9.8ポイント所有率が高い。

●携帯電話やスマホを平日に利用する時間については1時間以上の割合が43.5%である。全国は47.8ポイント、県は38.9ポイントで、県との比較では4.6ポイント多い。

携帯電話やスマートフォンの所有率が高く、毎日の使用時間も長くなっていることから、スマホ・携帯電話に関する使用時間や回数についても家庭学習との配分を見直させ、効率的に短時間での使用を意識させていきたい。また、スマホ・ケータイ電話の使用方法についてもルールの徹底や責任ある扱い方を集会活動で指導するとともに、各家庭に呼びかけていきたい。

●「学校の規則を守っている」に「当てはまる」と回答した者の割合は57.9%で、全国を3.7ポイント、県を4.1ポイント下回っている。

素直に自身の生活を振り返っているもので、成長に応じて物事をしっかりと考え、正しい行動に移すことができる実行力を身につけられるように道徳教育のさらなる充実を図り、日常の学校生活での関わりの中で呼びかけていきたい。